

投稿規定

1. 原則として、投稿論文の筆頭著者は本会の会員に限る。ただし、論文指導者が会員であれば、学部学生および初期臨床研修医は会員でなくても筆頭著者となることができる。
2. 論文の種類は総説、原著、症例報告などとし、未発表のものに限る。
3. 原稿の採否は編集委員会より委嘱された複数の査読者による peer review system を経て決定する。また原稿は編集方針に従って加筆、削除、修正などを求めることがある。その場合には、著者は4週間以内に原稿を修正し再投稿すること。
4. 投稿の方法は電子投稿に限る。
次項以降に記載された指示に従って Word、Excel、PowerPoint 等で作成した論文を、日本産婦人科感染症学会誌 (E-mail: jsidog-journal@med.kobe-u.ac.jp)宛に投稿すること。ただし常用漢字と平仮名を使用して、学術用語は日本産科婦人科学会および日本医学会の所定に従い、英語のつづりは米国式とする。(例・center, estrogen, gynecology)
5. 投稿にあたり個人情報の取扱いは個人情報保護法を遵守すること。とくに症例報告においては患者のプライバシー保護の点から個人が特定されないよう、氏名、生年月日、来院日、手術日、分娩日等を明記せず臨床経過がわかるように記述して投稿するものとする。また、対象となる個人からは同意を得ておくこと。
6. 投稿原稿は以下の①及び②の順に記載し、必要に応じて別途③を添付すること。文章、図・表は原則としてオリジナルのものを使用し、転載の場合は必ず掲載許可をとること。

和文論文の場合

本文の長さは、図表を含めて8000字以内とする。なお、図表は1点当たり約400字相当と換算する。

① 扉原稿

表題、所属、著者名、Key words [それぞれ和文とともに英文も併記、姓名はTaro YAMADAのように記述、Key words は5語以内でMedical Subject Headings (MeSH, Index Medicus) <http://www.nlm.nih.gov/mesh/MBrowser.html> を参照して記載]、著者ならびに校正責任者の連絡先(住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス)、論文の概要(600字以内)を記載すること。

② 本文原稿

緒言、方法(症例報告では省略可)、成績(症例報告では症例)、考察、結論、利益相反状態、文献、図・表の説明の順に記載する。単位、記号は、m, cm, mm, μ m, g, mg, μ g, l, ml, $^{\circ}$ C, pH, N, M, Ci, mCi, μ Cなどとし、本文中の数字は算用数字を用いる。文献の引用は論文に直接関係あるものにとどめ、本文中

の引用部位の右肩に現れた順に文献番号 1) 2) を付け、本文の終わりに番号順にならべる。

③ 図表原稿

図・表はそれぞれに 1 枚ずつに分けて番号をつけ別途、規定のファイルにして添付し、論文中に図・表の引用箇所を明示する。図表は縮小製版されても明瞭であるよう留意する。

英文論文の場合

本文の長さは、図表を含めて 3200 ワード以内とする。なお、図表は 1 点当たり約 160 ワード相当と換算する。

① 扉原稿

表題、所属、著者名、Key words [それぞれ英文とともに和文も併記、姓名は Taro YAMADA のように記述、Key words は 5 語以内で Medical Subject Headings (MeSH, Index Medicus) <http://www.nlm.nih.gov/mesh/MBrowser.html> を参照して記載]、著者ならびに校正責任者の連絡先(住所、電話番号、FAX 番号、メールアドレス)、英文 (200 語以内) とともに和文の Abstract (600 字以内) を記載すること。また、必ず医学系の英語 Native Speaker の校閲を受け、論文表題、著者名、校閲日、校閲者名、校閲者の署名を明記した英文校閲確認書を付すこと。

② 本文原稿

Introduction, Materials and Methods (症例報告では Cases) , Results (症例報告では省略可) , Discussion, References, Figure Legends, Table Legends の順に記載する。単位、記号は、m, cm, mm, μ m, g, mg, μ g, l, ml, $^{\circ}$ C, pH, N, M, Ci, mCi, μ C などとし、本文中の数字は算用数字を用いる。文献の引用は論文に直接関係あるものにとどめ、本文中の引用部位の右肩に現れた順に文献番号 1) 2) を付け、本文の終わりに番号順にならべる。

③ 図表原稿

図・表はそれぞれに 1 枚ずつに分けて番号をつけ別途、規定のファイルにして添付し、論文中に図・表の引用箇所を明示する。図表は縮小製版されても明瞭であるよう留意する。

7. 文献は下記の例に準じて記載する(引用文献の著者氏名、編者氏名は、3 名以内の場合は全員を書き、4 名以上の場合には 3 名連記のうえ「-ほか」あるいは「- et al」を付記する。文献略称は Index Medicus・医中誌に準ずる)。英文原稿の文献引用で和文誌を引用するときは、公式欧文略号を用いるが、それが無い場合は日本語名をそのままローマ字書きとする。

いずれの場合も(In Japanese)と注記すること。

- 1) 川名尚, 本田まりこ, 岡野英幸ほか. バラシクロビル塩酸塩による性器ヘルペス再発抑制療法に関する特定使用成績調査結果報告. 化療の領域. 2012; 28: 798-811
 - 2) 稲葉憲之, 林田志峯, 稲葉未知世. 肝炎ウイルスの母子感染. 川名尚, 小島俊行編. 母子感染. 東京: 金原出版; 2011. 300-307
 - 3) Yamada H, Tairaku S, Morioka I et al. Nationwide survey of mother-to-child infections in Japan. J Infect Chemother. 2015; 21: 161-164
 - 4) O' Boyle MK, Pretorius DH. Toxoplasmosis. NybergDA, McGahan JP, Pretorius DH et al. eds. Diagnostic imaging of fetal anomalies. Philadelphia: LWW; 2003. 763-767
 - 5) 伝染性紅斑 (ヒトパルボウイルス B19 感染症) . 東京 : 国立感染症研究所; 2016, <http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/642-disease-based/ta/5th-disease/idsc/iasr-topic/6213-tpc431-j.html>
8. 論文投稿に際し、すべての著者は利益相反状態の有無を論文末尾、謝辞または引用文献の前に記述し開示すること。利益相反状態の有無の基準は、日本産科婦人科学会の「利益相反に関する指針」運用細則による。なお、利益相反状態は論文に下記の如く記述する。
- 〔例1〕利益相反状態を有する場合
「〇〇〇〇は本論文に関連して□□株式会社より研究費を受けているその他の著者は開示すべき利益相反はない」
- 〔例2〕利益相反状態を有していない場合
「すべての著者は開示すべき利益相反はない」
9. 異体字は編集部にて正字に修正することがある。また、体裁などにおいては本誌の統一性を保つため、あらかじめ編集部の方で修正することがある。
10. 印刷の初校は著者が行う。ただし、組版面積に影響を与える改変や組み替えは原則認めない。
- 論文投稿時の連絡先に変更があった場合は直ちに日本産婦人科感染症学会誌 (E-mail: jsidog-journal@med.kobe-u.ac.jp)宛に連絡すること。
11. 投稿論文の著作権は日本産婦人科感染症学会に委譲するものとする。